AMDA
多様性の共存
ジャーナル

2020 年 7 月 25 日　VOL.43　第 294 号　定価 550 円
発行／ AMDA　〒 700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
郵便振替：01250-2-40709　口座名：特定非営利活動法人アムダ

2020 年
夏 号
夏

救える命があればどこまでも

令和２年７月豪雨（熊本県球磨地方）被災者緊急支援活動

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
https://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
https://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
https://www.amdamedicalcenter.com/
AMDA 兵庫　http://amda-hyogo.com/

被災状況

【活動概要】 2020 年 7 月 4 日早朝、熊本県、鹿児島県に大雨特別警報が発令。その後、熊本県・球磨川が氾濫し、同県南部を中心に洪水が発生しました。この深刻な被害状況を受け、AMDA は、熊本県熊本市からの連携支援要請を受けた岡山県総社市から医療チームの派遣要請を受けました。6 日、AMDA より医師 1 人、看護師 2 人、調整員（赤磐市職員）1 人を含む、「岡山県総社市・岡山県赤磐市・AMDA 合同チーム」が熊本県人吉市に向けて出発しました。その後追加で調整員を 3 人派遣しています。

チームは 6 日人吉市到着後、人吉保健所や地元医師会などが参加する「人吉球磨地域災害時保健医療対策会議」に参加。その日の夜から熊本県球磨村保健師からの要請により、医師 1 人・看護師 1 人が球磨村の避難所である「さくらドーム」の避難者を健康面から見守ることになりました。その後、球磨村の方 100 人以上が避難している人吉市立第一中学校にて避難者の見守り、柔道整復師による施術、鍼灸の活動も行っています。

【第 1 次チームで被災地入りした佐藤拓史医師より】

7/6 午後に人吉到着後、人吉保健所にて医療活動チーム登録を済ませた後、人吉市立第一中学校の避難所に移動しました。人吉市や球磨村の関係各所、避難所内で活動している他の医療チームとの連携は非常に大切で、しっかりとコミュニケーションを持ちながら避難所の状況把握に努めました。また、どう寄り添っていけるかを自問しながら、避難してきた方々からお話も伺いました。夕方には、人吉保健所において人吉球磨地域災害時保健医療対策会議に出席し、各方面からの情報の整理と今後の活動内容の検討を行いました。更にその後に開かれた DMAT や TMAT 等の各医療チームの活動ミーティングにおいて、活動初日から球磨村の避難所であるさくらドームでの夜間当直を担当することになりました。AMDA 医療チームの任務は、この災害を乗り越えていく地域の人々のお手伝いになることであれば、医療の枠を超えていける活動でもあります。被災地の復興を自分達で成し遂げていく地域の人々の強い意志を感じながら、地域の声を聞き活動を検討していきました。当初は、避難所内での環境作り、物資の支援、救護所医療を地域の医療機関と連携しながら行っていたが、その後、避難後の疲れやストレスを少しでも緩和できるよう鍼灸や整骨のプログラムを導入していきました。被災された方々の逆境に立ち向かっている姿を見て、この災害に負けることはないと確信しました。

（東亜大学医療学部教授・AMDA 理事・AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム運営委員会副委員長　佐藤　拓史）

診察状況

世界各地で猛威をふるう新型コロナウイルス感染症

◇フィリピン
～オンライン無料医療相談、医療機関への個人防護具の提供、ウェブセミナー～

①オンライン無料医療相談

フィリピンでは、ルソン地域およびセブ地域を中心に課されていた「コミュニティ強化隔離措置」により不必要な外出が禁止されていました。これにより、いつもは大渋滞に悩まされるマニラも静まり返っていて、日常生活に必要不可欠な商店、医療機関以外は閉まっており、公共交通機関も止まっていました。自家用車がない人は医療機関へのアクセスも限られ、かかりつけの個人クリニックなどは閉鎖しているところもありました。現在、緩和傾向にあるものの、隔離措置は継続中です（6月10日時点）。

このような中、AMDAフィリピン支部はオンラインの健康相談を受け付けることで病院に患者が殺到するのを防ぐと同時に、医療面で不安を抱える人が取り残されることのないよう、3月23日から4月17日までオンライン無料医療相談を行い、相談件数はのべ973件となりました。

今回の健康相談への対応は、AMDAフィリピン支部、フィリピンの協力団体及びAMSA（アジア医学生連絡協議会）の学生、教職員ボランティアに加え、医師、薬剤師をはじめとした医療者、計105人にご協力いただきました。

②医療機関を中心に個人防護具などの物資を提供

新型コロナウィルス感染症の影響により、フィリピン全土でも不足しているマスク、フェイスシールドを含む個人用防護具、エアロゾールボックス*、トイレ用品などを、4月中にAMDAフィリピン支部と繋がりのある医療機関を中心に、計18か所で物資を提供しました。提供したフェイスシールドは、AMDAフィリピン支部医師宅近くに住む近所の人や子どもたちからの協力を得て、

400個を手作りしたものです。物資を受け取った方からは、「このような支援に感謝しています。この新型コロナウイルス感染症による危機の中で、最前線で戦う医療者のために使用します。」「ありがとうございます。これが落ち着いたら、今度はAMDAを助けたい。」とコメントをいただきました。

* 個人用防護具が不足する中、挿管などの際に出るエアロゾール粒子から医療者を守るための透明な箱。

③新型コロナウイルス感染症バヤニハン（タガログ語で相互扶助）ウェブセミナー

新型コロナウイルス感染症に起因する危機的状況により様々な課題が浮き彫りになる中、医療だけでなく他分野の参加者にも医療の現状を伝え、今後これらの課題にどう取り組んでいくかを考えていただく場を提供することを目的に「バヤニハン（タガログ語で相互扶助）ウェブセミナー」が行われました。これは、AMDAフィリピン支部がAMSAフィリピンをはじめ地元の団体と協力して行うもので、5月30日から6月27日まで、毎週土曜日に行われました。医療の視点から5つの議題（「遠隔医療」「新たな基準に従った安全な職場」「新型コロナウイルス感染症に罹患した医師の経験」「先住民におけるメンタルヘルス」「予防接種」）、について各分野のスペシャリストからお話いただきました。セミナー参加者はのべ700人以上に上りました。

（フィリピン担当：岩尾 智子）

◇インド・AMDAピースクリニック妊産婦への緊急食糧支援

AMDAピースクリニック（APC）があるインド東部ビハール州ブッダガヤは、元々貧困率の高い地域です。特に街の中心部周辺に住む人たちは観光や建築関係の日雇い労働を主な収入源としており、新型コロナウイルス感染症の影響により収入は激減しています。

6月8日から再開したAPCが当院に登録している妊産婦に電話で調査を行った結果、収入が断たれたため、生活が困窮しており食糧にも困っている人が大変多いことが判りました。この状況を受けてAMDAは1週間に1度、APCに登録している妊産婦の家庭を対象に緊急食糧支援を実施しています。

（インド担当：岩尾　智子）

各国 AMDA 支部の活動

◇ AMDA アフガニスタン支部

AMDA アフガニスタン支部は、同支部長が運営する日本アフガニスタン友好病院を中心に、地域に根差した活動を実施しています。2020 年 4 月 16 日から 6 月 15 日現在、首都カブールを含むアフガニスタンの 5 大都市（カブール、カンダハール、ヘラート、ナンガルハール、バルク）では、コミュニティ隔離措置が取られており、人々の外出が制限されています。また医療機関の受診は、重症患者を除いて原則として禁止されている。この為、1 日にして平均 100 人から 150 人の患者が訪れる同病院でも、患者数が 60 人から 70 人までに減り、コロナウイルスの感染が疑われる患者については最寄りの政府系病院に紹介しています。病院を受診する場合、通常は 150 アフガニから 200 アフガニ（約 250 円から 300 円）の診察料がかかるが、今回は特例として、支払いが難しい患者に対しては無料で診察を行い、価格が高騰しているマスク、石鹸および手袋を配布しています。同時に、アフガニスタン公衆衛生省発行のコロナ対策に関するビラを来院者に配布し、家庭でできる予防策を病院スタッフから伝えるようにしています。

（国際部　近持　雄一郎）

◇ AMDA インドネシア支部

AMDA インドネシア支部は、2020 年 3 月 25 日よりマカッサルにある小規模病院と協力して、コロナウイルスに感染の疑いがある患者に対しスクリーニングを実施。4 月 1 日現在、3 人の医師が同病院に来院する全ての外来患者に対し、毎日午前 9 時から午後 3 時までスクリーニングを行っています。その数は、1 日あたり 30 人から最大で 50 人であり、症状が比較的軽い患者に対しては自宅待機とし、症状が重い患者に関しては、患者の隔離が可能で尚且つコロナ検査を実施している他の医療機関へと移送しています。これまでのところ重症患者の数は 4 人を数えました。3 月 2 日以降、インドネシアではコロナウイルスの感染が拡大しており、3 月 31 日の時点で感染者 1,528 人、死者 136 人、回復済 81 人となっている。政府は市民に対し、ソーシャルディスタンシングや外出の自粛、在宅勤務を推奨しています。

（国際部　近持　雄一郎）

◇ AMDA ネパール支部

AMDA ネパール支部は、AMDA 本部の依頼を受け、2020 年 2 月 5 日、中国・北京にある北京日本倶楽部に向けてマスク 16,000 枚を輸送しました。一方、3 月以降、ネパール支部は厳戒態勢の中、業務を継続。国内における感染者の増加を警戒し、3 月 20 日、コロナ対応計画を発動。系列の三つの病院において、発熱に関する報告を義務化し、各病院にコロナ対応ヘルプデスクを設置しました。4 月 12 日より、前出系列病院において、検温と移動歴の聞き取り等を行うことで全ての患者に対するスクリーニングを開始。陽性の疑いがある患者は、精密検査の為、他の医療機関へ移送する体制をとりました。AMDA ネパール支部長アニル・ダス氏は、「本部からマスクの輸送依頼を受けた時、大半の感染は中国で発生していた。当初ネパールでは感染者がおらず、マスクは安価で購入でき、外国への郵送も可能だった。本部にはネパールのことをいつも一番に考えて頂き、いつもご支援をいただいている。今回は、AMDA ファミリーの一員として、私達が迅速にできる協力をさせて頂いた。これからも AMDA とともに災害医療に携わることができればと思っている。」と語っています。

（国際部　近持　雄一郎）

国内医療機関、福祉施設にマスクとアルコールの緊急支援

新型コロナウイルスへの影響に対する物資支援として、最初に行ったのは中国への物資支援でした。その後徐々に影響は日本国内にも拡大。4月に入り医療機関より、マスクやアルコール不足の情報が入るようになりました。

詳しい状況を調べるため、これまで大規模災害準備や被災地で共に活動するなど、関係の46の病院、福祉施設にメールや電話による聞き取りを行いました。

ある程度の備蓄や独自の購入ルートを持ち充足している病院がある一方、「マスクが2月から一切入らない」、「現在はなんとか備蓄があるが5月まで持つかどうか」、「職員に対し1週間に1枚、2枚しか渡せず、今後の見通しがたたない」などといったところも多数あり、緊急支援を決定しました。結果、調整のついた40の病院・施設にサージカルマスク・アルコールを提供しました。受け取り先からのメッセージをご紹介いたします（敬称略）。

◇黒潮町拳ノ川診療所（南海トラフ災害対応プラットフォーム協力自治体・医療機関）

「貴重なマスクをいただきまして、ありがとうございます。町の医療に大切に使用させていただきます。今後とも、黒潮町をよろしくお願いいたします。AMDAの皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈りいたします。」

◇社会医療法人全仁会 倉敷平成病院
（南海トラフ災害対応プラットフォーム協力医療機関、2018年7月西日本豪雨災害支援活動協力医療機関）

「ありがとうございました。岡山県内では22件の感染が発生しておりますが、幸いなことに倉敷では発生しておりません。とは言え、我々としてはいつ起こるかわからない感染症に対応すべく準備を行っている状況の中で医療資材の調達がままならず、困窮していたところでございます。今回、AMDA様からは物資とともに大きな志を頂戴し、我々としては大変勇気づけられました。出来るだけ早い終息を願って止みませんが、地域の病院として地域で社会的責任が果たせるよう引続き努力して参りたいと考えております。」

◇社会福祉法人 旭川荘
（南海トラフ災害対応プラットフォーム協力医療機関、2018年7月西日本豪雨災害支援活動協力医療機関）

「ありがとうございました。本日、さっそく知的障害児の通園施設「みどり学園」に渡してきました。おもちゃなどの消毒にハイターを使わざるを得ない状況なので、大変ありがとうございます。」

◇一般財団法人共愛会　老人保健施設 虹
（2016年熊本地震被災者支援活動 協力福祉施設）

「新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、今私たちは危機的な状況に陥っています。介護老人保健施設は、高齢のご利用者をはじめとする集団の場であるため、クラスターが発生しないよう日々感染対策の徹底を図っています。そのような折、マスクや手指消毒液などの医療材料が不足し、納品の見通しもつかず対応に苦慮している際に、AMDAより医療材料のご提供を受けることができました。この度のご支援に深く感謝するとともに、日頃からの関わりや互助・共助の大切さを改めて考えさせられました。今後も引き続き徹底した感染対策に取り組み、この状況を職員一丸となり乗り越えていく所存です。」

◇一般財団法人 倉敷成人病センター

（南海トラフ災害対応プラットフォーム協力医療機関）

「新型コロナウイルス感染に伴い、医療用マスクをはじめとする個人防護具や消毒用エタノールの供給不足が続いている中で、物品の手配や配送に関われた皆様には大変感謝申し上げます。ご配慮いただき誠にありがとうございました。」

◇特別養護老人ホーム ライフケアももぞの

（2016 年熊本地震被災者支援活動 協力福祉施設）

「新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、職員をはじめ利用者の皆様、そのご家族様にも、ご理解とご協力を得ながら『徹底した予防』に努めております。この度、アルコール消毒液が不足している中、エタノール消毒液をご寄贈頂き、誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、ここに関わる皆様に感謝しながら使用させて頂きます。誠にありがとうございました。感謝いたします。」

AMDA は引き続き、医療や福祉の立場で対応されている方々の一助となるべく、支援を続けていく予定です。

（プロジェクトオフィサー　橋本　千明）

岡山商工会議所より提供のマスク、医療資材不足の医療機関へ

新型コロナウイルス感染症への対応として、災害支援の協力協定締結先の医療機関などを対象にマスクなどの支援を実施する中、岡山商工会議所様よりマスク 2,000 枚を寄贈頂きました。岡山県商工会議所連合会と AMDA は 2020 年 3 月、大規模災害時の緊急医療支援活動に関する連携協定を締結しました。岡山商工会議所様からのマスクのご支援は今回で 2 回目です。産業界と連携を深め被災地の状況、交通情報、支援物資の提供、宿泊、通信手段、資金面などのご支援、ご協力のもとで災害時に迅速な緊急医療を提供できるようにします。

新型コロナウイルスの影響下で AMDA が医療機関、福祉施設などへマスクの物資支援を計画する中、マスク入手が困難な状況でありながら今回の緊急支援にご賛同頂きお持ちくださいました。岡山商工会議所 専務理事 髙橋邦彰 様より「医療の最前線でご活躍されている皆さまを応援いたします」とメッセージを頂いております。最前線で対応されている医療機関へ寄贈し、役立てられています。

（プロジェクトオフィサー　橋本　千明）

ナカシマプロペラ株式会社様よりマスク寄贈

この度は、ナカシマプロペラ株式会社様より、医療マスク 500 枚、一般マスク 500 枚をご寄贈くださいました。心から厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援活動として、海外では中国在住の日本人、日本国内では、災害支援の協力協定先、そして、大規模災害時にご協力いただいた医療機関などを対象にマスクや医療ガウンなど物資支援を行っています。今後も新型コロナウイルス感染症予防対策として、AMDA の関係先機関に活用させていただきます。

ナカシマプロペラ株式会社様は 2005 年より 15 年にわたり、アムダの法人会員としてご協力くださっています。

ナカシマプロペラ株式会社 次長 神崎浩二様のメッセージ

世界で活動を展開しているナカシマプロペラとしては AMDA がいつも広く社会貢献をされていることに敬意を表します。今年の冬に心配されている新型コロナの第 2 波に備えられればと思います。わずかでもお役に立てられたら幸いです。

（理事　難波　比加理）

こども食堂へお米配布の支援

AMDA こども食堂支援プラットフォームは７月３日、お米を希望されたこども食堂関係者団体へ配布しました。今年度最初のお米配布で県内こども食堂からは３団体の他、こども食堂と県内の子ども支援者や弁護士、社会福祉士らで作る「子どもを主体とした地域づくりネットワークおかやま」へフード＆ライフドライブの活動としてお米の支援をしました。

今回、新型コロナウイルス感染予防で例年通りのこども食堂の運営、活動を自粛せざるを得ない状況の中、感染拡大の影響を受けている家族などをサポートする目的の一つとして支援しました。今回支援したお米の総数量は 560Kg をそれぞれの団体へ配布しました。

お米は真庭市にある十字屋グループ様のご協力で、AMDA が緊急事態に備え、十字屋グループ（真庭市）の倉庫に籾で保管していただき、毎回こども食堂へは玄米でお渡ししています。

岡山県内の産官学民からなる AMDA こども食堂支援プラットフォームは 2017 年 12 月に設立され、お米の配布は設立以降年４回、今回で 10 回目となります。

（AMDA ボランティアセンター
事務局長　竹谷　和子）

「にじ作業所」の子どもたち、家族、職員からマスクのお礼の絵をいただきました

2020 年に入り、日本国内でも新型コロナウイルス感染が拡大する中、2020 年、年明けより日本国内でも新型コロナウイルス感染が拡大する中、AMDA 兵庫は AMDA 本部より提供を受けたマスクを、事務局として運営協力いただいている知的障がい者施設「にじ作業所」に寄贈しました。今回、マスクのお礼として、「にじ作業所」の子どもたちや家族、職員の方が描かれた、コロナの疫病退散の「アマビエ」の絵を送ってくださいました。

AMDA中学高校生会　オンライン会議開催

5 月 24 日、新型コロナウイルス感染防止のため初のオンラインによる AMDA 中学高校生会 (中高生会) ミーティングを行いました。この３月に中高生会を卒業した大学生や AMDA でボランティア活動をしている大学生たちに協力をいただき合同ミーティングの形で実施しました。大学生たちは、来年度新たに AMDA のボランティアグループ「学生会」の立ち上げを予定しています。

◆ミーティング内容

今回のミーティングは中高生会 16 人、大学生６人、担当者が参加し、ミーティングの前半は中高生会リーダー井口海の進行で自己紹介、近況報告、中高生会入会のきっかけなどを発表しました。

後半は大学生が中心になりワークショップの形で会を進め、世界の様々な問題をプレゼンテーションで提案した後、小グループに分かれみんなで考えを発表しました。参加した中高生会メンバーは先輩たちの考えや意見に大きな刺激をもらいました。

◆参加者からの感想（一部）

（中高生会）

・情報を正しく得たうえでの発言の大切さ、また世界には全然知らないことが山ほどあるし、自分が動こうとしないと始まらないことを学びました。

・私は高校２年生ですが先輩方のプレゼンを聞いて少ししか離れていないとは思えないほど素晴らしかったし、参加できて本当に嬉しかったです。

（大学生）

・私たちは「些細な意識の変化や新しい行動を起こすきっかけ」という目的で、この時期だからこそ各々が取り組めることは何か？という問についてグループ別に一緒に考える時間を設けました。目的に沿った意見をたくさん出してくれた為、今回の企画がお互いに有意義なものになったと思います。

・自分の意見を明確に伝えることができたり、相手の話を聞いてさらに考えを深めることができたりと、普段の定例会と形式は変わってもみんなの意欲や態度は変わることなく定例会に取り組めていました。

（AMDA ボランティアセンター事務局長　竹谷　和子）

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第 25 回 AMDA フィリピン支部　エレイ・ナバロ 支部長

AMDA を支えてくださっている支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをお伺いしている「支える喜び」シリーズ。25 回目となる今回は AMDA フィリピン支部長にお話を伺いました。

（聞き手・フィリピン担当　岩尾　智子）

AMDA　AMDA フィリピン支部長として、新型コロナウィルス感染症の影響に対する様々な支援活動を牽引されているナバロ先生ですが、いつ同支部長に就任されましたか？経緯も含めて教えてください。

ナバロ支部長　AMDA との出会いは、AMDA インターナショナル名誉顧問であるプリミティボ・チュア医師を通じてです。2006 年に AMSA（アジア医学生連絡協議会）の会議が香港で開催された際に AMSA 設立者でもある菅波代表とチュア医師も参加されていました。そこでチュア医師に声をかけていただいて以来、緊急支援活動への参加、会議開催の準備などフィリピン支部の活動に関わってきました。2017 年に前支部長のリネット・ビラ医師から後任をお願いできないかと申し出がありました。最初は、仕事、支部の活動、私生活と両立できるか悩みました。周りに相談し決意が固まり、2017 年 7 月に AMDA フィリピン支部長に就任しました。確かに、支部長を担うことは一つの挑戦ではありますが、同胞への支援に加え、自分の能力や知識を活用しなくてはと思ったのです。

AMDA　新型コロナウイルス感染症はフィリピンにどのような影響を及ぼしていますか？ フィリピン支部では、この状況に対してどう対応しましたか？

ナバロ支部長　政府に課された都市封鎖によって市民の生活は大きな影響を受けています。全ての交通網がストップしたため、市民は自宅待機を余儀なくされ、地方の人たちは帰郷できず、親族や友人宅に身を寄せる人もいました。食糧の買い出しすら大変で、入店制限を行っている店の前は買い物客が長蛇の列を作っていました。今では、オンラインショッピング、ドアからドアへの配送サービスも急速に発展しています。

AMDA フィリピン支部は、この状況下で自分たちの専門性を人のために活かせないか、考えている中、思い付いたのが人の移動無しにできる「オンライン無料医療相談」でした。相談を受ける医療者を集めるため友人知人に連絡を取りました。時が経つにつれてボランティアのネットワークがフィリピン全土に広がり、1 か月間の活動を行うことができました。他にも、医療機関などへの個人防護具の提供、新型コロナウイルス感染症に関連するテーマについてのオンラインセミナー開催、といった活動も行いました。信頼のおけるフィリピン支部のメンバーや AMSA の学生からのサポートにより実現できました。

AMDA　AMDA フィリピン支部長 AMDA フィリピン支部の今後の展望を教えてください。

ナバロ支部長　医療者、非医療者を問わず、より多くの人に支部の活動に参加してもらい、支部のことを知ってもらいたいと常々、思っています。困難な状況下でも、活動を通じて人々に良い影響を与えることを目的としてるフィリピン支部では、体制強化を目指しています。そして活動を行う中で、支部の新しいリーダーが触発され、またパートナー組織とのネットワークが広がることを願っています。皆様からいただくご支援は私たちの草の根活動を続けることに繋がります。皆様からのご支援に深謝いたします。

（フィリピン担当：岩尾　智子）

新型コロナウイルス感染に対する AMDA の活動を支援していただいた方々に厚くお礼を申し上げます。

AMDA 本部は AMDA ネパール支部、カンボジア支部やベトナム関係者の方々からマスク入手のご協力のもとに、海外では北京日本倶楽部や天津日本人倶楽部そして AMDA インドネシア支部、AMDA アフガニスタン支部に、国内では AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム参加医療機関や福祉団体にマスクを贈呈することができました。今年の冬に予想される新型コロナウイルス第 2 波の発生にも積極的な対応を計画しています。ひきつづきご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 AMDA　理事長　菅 波　茂